

教育実践に関する若干の考察

Some Thoughts concerning Education

乾 隆 次

第一、悪魔の哲理

現代ほど人権の尊重が強調される時代はない。居住、信仰、思想などについて広汎な自由が与えられているのは、むしろ協同社会の共存理念から考察して、是正すべき点もあるやに思考される。だが、こゝに矛盾の極たるものに幼少中高の学園における教科担任、学級担任の問題がある。最愛の我が子を教育投資の対象としている庶民大衆の階層にあつては、学校の選択はともかくとして、その指導担当者は最も関心の深い点である。新学期直前の父兄母姉の念願は、自分の子弟が誰の世話になるかである。理想論は例外として現実では教師が指導上の絶対権力を持っているからである。教師に対する不満や不信や増悪があつても、じつと我慢の泣き寝入りの結果が学習

塾六十方を育成したものと云える。一面から言つて、まさに国民の正当防衛とも称すべき悪魔への挑戦である。

私は教師の資質と生徒の学力の相関を実証したことがある。学校経営上、最も無難なのは、学年教師の持ち上り方式である。指導力の平均分割で、近代的無差別の美名のもとに、公然の秘密たる無効率を父兄の運命的な諦観にゆだねることである。優劣の極端な教師を、機械的に部署につけるのは愚かなことである。自他共に劣等学校なりと信じている変態観を打破するため、校内の精鋭をすぐつて、進学学年に廻し、学校の行事をすべて割愛し、学力増進に全力を集中してみた。遅刻早退欠勤のない教師、教育愛に燃えた不惜身命の青年層、責任感から、遅進生の促進教育を放課後に完成する良心的な女性教師、学術雑誌に教育観を投稿する学者型の主任など、品度の低い鉱石から可能な限り、卓越した分子を集合させて、高校入試に突進して

みた。聖職意識と自称民主教育の対決である。この結果は如美に出現して、在来の公立、私立の進学状況は逆転して父兄の謝するところとなった。

まさに教師は教壇で勝負するであつて、吉田松陰先生の趣味は玩物喪志なりの教訓に一致したものである。動いている自転車は倒れないように、情熱の湧いた学園では、サボリの合理化は許されない。この情熱の根源は士気であり、士気の終点は評価である。作業効果の判明しない職場にあつては、上司による職階の位置が評価の公示である。平等を説く宗教界にあつても衣の色で階列を示し、冠の形で身分を表すのであるから、校務の分掌でも、自分がどのように評価されているかに関心が持たれる。とにかく名誉心は人間の特色である。部長、主任、副主任などは平担な社会にアクセントを付けるものであつて、日本の教育界でも全国に普及するのは時間の問題である。向上の意欲もないマンネリ教師に指導され、失敗にも眼を閉じる去勢教諭に世話になつているのを保護者が見ても、みすみす家庭でその非を補正するだけでは、永遠に教壇の神聖は恢復されない。教員の採用テストそのものが、世間の教師不信を示すものである。戦前の教員免許状はそのまゝ、当人の資質を表示するもので簡易な面接だけで教師に採用されたものである。だが戦後は教員の養成は解放制になり、先進諸国のうち、米国と日本だけが、目的大学でなくなつて、次第に低次元の教師が増加してきた。

だが安定した職場が魅力となつて、志望者が激増し、それに関与した受験産業も生まれてきたから、国益を考慮せず、自己の無能を反省しない不適格者や、異状な精神の兆候を示す者や、どんどん追放する必要がある。共通一次試験や総合選抜で落伍した生徒が、不良教師にどんな反感を持つか想像外である。

企業の人事課などは、社員の採用に最も忠実であるのは、自分達の失策が、自他共に、会社の運命を左右するからであるが、教育界や司法界では反国家の偏向思想でも、革新の美名のもとに潜入採用されるのであるから、誠に始末がわるい。教員の人員費は全国の前年度の四七%を占めているという。

もし一個学級の定員が三十人になり、事務職員が充実されたら巨大な財政負担が必要になってくるであろうから極力人員増は避けねばならない。ここに、教師の量から質への転換がある。もちろん、日本人は善にも悪にも正にも不正にも両極端である。あの終戦末期に、祖国の存亡が問われるとき、満州の戦線でソ連軍の中佐参謀となり、同胞の殺害に手を貸した壱国奴があるかと思うと、敗戦の色の濃厚な鹿屋の特攻基地から、ベニヤ板の人間爆弾となつて散華した有為な青年もあるのである。

南海の伝説によれば、サンゴ礁の小王国で一年の始めに、成人一人の年間消費の食糧を産出する田畑の区画に一人づゝ立たせ、余つた者は筏に一カ月分の食糧をのせて黒潮に流したという。信州の姥捨山も、同じ構想であるとき、日本の教育界に害を与える者を追放し、益を与えない者を排除することにならな

いか。国民教育を推進する百万の教師は、日本が置かれている国際情勢が必ずしも安閑を許さないことを悟り、衣を着ている狸の本心を見抜くだけの知識を持たねばならない。

かしこくも、一旦緩急あれば、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼することを決意されているが、教育界に押しよせる思想侵略の外敵の現存を忘れることはできない。

それでは一体、教員の理想像は何か。完全な師道への到達の度合はどんなものか。国家の要請する勤務評定の尺度から、検討してみることにしよう。教員の属性は分析して、個々の部分の評価し、その集計を総評として、ABCDEの五段階に総括して教委に報告することになっている。もし多数の物理的圧力に屈したり、大勢に阿って提出しない場合は管理職として処分をされることになっている。

動評の総合的な評価尺度として、教師の生活態度がある。順次項目別に述べていくと、

① 指導の熱意をもっているか。

常に生徒の将来を考え、始業前十五分には職場に到着し、遅刻も早退も欠勤もないのが望ましい。麻雀や囲碁に熱中したり、旅行や社交に時間を浪費し、教材研究の訂正加除もなく、ただ漫然と給料だけを待望したり日常勤務の分量には鋭敏で些少でも超過賃金を要求し、家庭訪問で時間を取られると翌朝は、その時間だけ、遅刻をしたり、早退して自分の労苦を金銭に換算したりするのなどである。

職員朝礼やホームルームを黙殺し、授業に間に合えばよいと解釈し、勤怠の統計係を困らせたりする。給料の計算上、遅刻早退の減額はしないので、狡猾な者がのさばっている。

ストに参加しても、二十九分で帰校するし老齢の婦人教師に生理休暇を取らずし、文部省が有給休暇は、休業日に取るよう希望しているが、授業時数の多い曜日を狙い、年に四十回の半日休暇を欠かさない。結婚なども、平気で一週間もとり昔のように休暇を避けて、学校の行事に支障ないようなこと、殊勝な忠誠心はない。すべて、自己本位に終始することが近代的思想だと思っている。

② 自主的態度を育成しているか。

生徒は教師を見習うものである。自分がただサラリーマン型の生活をしていては、生徒が自ら目標を樹て、自律的に学究の方策を進めるように誘導することはできない。独学で上級の免許状や資格を取得しようと積極的に行動している教師の担当生徒は、自然と自律的に作業をするものである。その教師の専攻科目と、担当生徒の該科目の成績の相関係数は八〇であることから、教師の足跡が大切である。

③ 信頼されているか。

中学校から、非行生徒が多数検挙されたりするが、担当教師に相談するのは、友人や両親に比べ、はるかに低位である。これは近來の教師に人望がなくなっているからである。暴力生徒の歓心を買うような態度、さわらぬ神にたたりなしで見

て見ぬふりをする様子など小才の走る人が賢明とされているから憎まれる行為は避けようとする。義務教育に従事する教員の尊敬されている職業別の順位は数十の職種の内第十一位であるから決して低いものではない。もちろん、構成員の学歴が大学卒を原則としているのだから当然である。けれども、その反面、小数の異端者が出ては許されない。特称判断が全称判断となり、教育者全般の責任とされる。生徒のカンニングを校則違反として処罰しようとする時、彼等が教師の地公法違反のストに言及してきたらどう答えるべきだろう。アルバイト、プレゼント、リベート、セクト、ストの、いわゆる五ト先生の存在は、誰しも口外しないだけの常識になっていく。心ある人は教員根性とか、教員風情として軽侮しているのを、当人だけが、雷同的に先覚者と錯覚しているだけのことである。

④ 公平な取扱いをしているか。

教師も人の子であるから、生徒の教導に際して、心理学上のハロウ効果の現象が生れてくる。容姿の美しい子の成績や品性の評価が上昇し、父兄の門地富裕度が色眼鏡になり、縁故や関が潜在意識となってくる。生徒は自己顕示欲が強いので、同僚の評判が関心の的となり、羨望ともなつて、不公平の処置には敏感になり、歪んだ被害妄想的な差別排除を強調したりする。敬称の有無や日常の会釈にも、心の中が投射されるのだから警戒を要する。知恵遅れや肢体不自由児には、

特に公平な態度を示さねばならぬ。これらの特殊学級を担当したら、本俸が一割増加し、退職後の年金にもひびくことを計算して志願するのは余りにも浅ましいことである。

⑤ 同僚との協調をしているか。

協同生活を営んでいる以上、多数決の原理とか、大勢順応を忘れてはならない。但し、正義とか真理は、合議者の資質が均一でなければ多数の横暴になり、小多数意見の不満が職場の空気を混乱させることになる。かつて、国鉄や私鉄の乗員募集の要項に、中学校卒に限ると明記してあったことがある。同じ仕事を同じ効率でやるのに、学歴によって待遇に甲乙を生じさせない為の深謀であったのであろうか。学校にも派閥があるが、個性に応じて構成員の長所を活用するために、小の虫を殺す雅量も必要である。自分達の意志を完遂するために、予めパーティを開いて投票数の下調査をするのなどは、対立を潜行させるだけである。

⑥ 学校教育の向上を考えているか。

地域の特性や、学校の規模、父兄の要請などにより、どの学校にも、盲点が発見される。学習指導が生活指導、学級経営、学年経営、校務の処理、職員研修、渉外活動など各部門にわたり、継続的に自己評価を累加し、他校との比較によって改訂の焦点をつかむ必要がある。失敗のあとを反省し、更に完全を志向するのは、教師個人にも、教師集団にも、学園全般にも通用することである。

指導案の提出を拒否したり、校長の授業参観を嫌ったり、研究レポートを他人まかせにしたり、研修会には仮病を使ったり、講習会には出席印を友人に委託したり、私用で無断外出したり、昨年と同じ教材資料を使ったり、テストの監督で正解のヒントを受持ちの生徒に与えたりしていても、全校の共通テストの誤答分析をしたり、生徒のノート検査、受験業者の一斉テストの偏差値、職員会議、父兄会、研修報告、所有図書、私公文書の内容、通信簿の内容、分掌校務の公簿の処理などから、教師個々の評定は完全に近くなり、校長が代っても、本質は不変であるのが望ましい。以上の項目六十五個について、五段階に絶対評価し、5点から下は1点までとし、総計点の多いものから、教科別に序列をつけ、三年生のAグループを担当させたことがある。チームテイチング、能力別、五日制、男女別学制など、内外の文献に優とされたものを、内密に駆使して実証してみた。図書館も自習用に、理科の教弁物もふんだんに使用、栄養剤も与え、近隣優秀校とも学術他流試合をするなど、思う存分に経営を専行させてみた。最高の学習環境を与え、PTAの研修費をプリント代に投入して全力をかけてみた。生徒は平等均質に配分してあるのに、グループ教員の指導力の総和は、恐ろしい程生徒の高校入試に正の係数として表示された。

開校以来の好成績から、帰納して、学習成績の向上は、学級定員の多少でもなく、教師の不惜身命の団結心であるとの確

信を得た。

現在百万の教員を再び篩にかけ、国家試験を実施し、思想、学識の洗脳を、もう一度洗脳する必要がある。卵を産まなくなった雌鶏に高価な餌を与えるのは世紀の恥である。

わが国では、大学生の三割が就職課程を取り、その三割が採用テストを受け、その三割が教壇に立っているという。大阪府の昭和五十三年七月の中学校教員志願者は約一万人であるから恐らく三万の教育実習生がいることになる。

全国の私大卒の教員採用率は卒業生の1%~2%という。一匹の迷わぬ羊を守るために他の九十九匹を迷わすのだから、無効率なことは、論をまたない。まことに愚策である。

第二、娑婆の論理

「韓非子」に「死馬の骨を千金で買う」との名言がある。人間は、ホモ・サピエンスからホモ・ファールブル、ホモ・ナランズと変化しているが、自己愛の本質は不易であるから、過去の歴史の足跡を教訓として、新しい事態に対処するであろう。こうなると逆も亦真なりの理法がはたらくことも当然である。

では日本の国民意識の現状はどうであろう。

南方諸島のジャングルに苦むす二五〇万の遺骨、満蒙の荒野

に収むる開拓義勇軍の遺骸、日本国籍を奪われて、大陸に取り残された五千余の戦争孤児、墓碑もなく朽ち果てていくシベリアのラーゲルに怨を呑む関東軍の将士、これら誠忠の人々の血肉の上に築かれた繁栄を享受している反戦分子や戦後生れの若者の痴体などを見るにつけ、死して護国の鬼となった靖国神社の英霊がどんな思いで母国の様子を眺めているか。戦争忌避は正しい理想であるが、憲法的一条を呪文として、利敵行為に生活の糧を求める獅子身中の虫がはびこってきた。各種の不法デモや暴動に対処する警察の弱腰、一騎当千の機動隊こそ国民が望むのに、物量には物量と、かえって多勢が引き廻わされている現実である。攻撃側の資金の出所もつかめず、防衛側数億の臨時支出は国民の血税である。警察を恐れる教師集団に洗脳された児童生徒が、国家に反抗し、世間に不満を抱き、革命に走るの、スポンサーの君命に忠実な猿廻しの猿の努力である。青年の意識調査を見ても、趣味とかマイホーム主義で、核家族の小さい殻の中の幸福を理想とし、社会国家に貢献しようなどの殊勝な者は一%にも足りなく、教え子を再び戦場に送らぬことをモットーとして天皇制や私有財産制否定を叫んでいるから、近く、どこかの海岸に一個分隊の侵略兵士が上陸しても、喜んでスパイになり、祖国を崩壊するのに挺身する分子が生まれるであろう。

国家の最高の権威である国会の開会式に意識的に出席を拒否する輩を、処罰することも制裁を加えることもできない法治国

では、生徒が恩師をなぐり、小娘が父を殺すのも当然である。まさに力は正義の理が通用していることに慄然とするのは、明治、大正の人間だけであろうか。

日本近海に沈む数百の艦船の引き上げも民間有志の善意にゆだねるだけで、国家は何もしないし、戦争に参加した将兵を犯罪者のように扱う実例を眼のあたりにしては、いくら急に愛国心や国防意識を唱道しても殷鑑遠からずである。まして初等教育から高等教育まで、民族の興隆を帝国主義と誤認して、魂の底から、個人の幸福主義、自分の快樂至上を教えこまれた次代の青年達が、どれだけ奉仕の信念を発揮するであろう。

明治維新の拝外思想の盛んであった時、二束三文で寺院の、仏像、絵画が外国に流出し、今、巨額の費用で買戻している程、日本人はお人好しである。マ元師が、日本人の精神年齢が十二歳であると称すると、インテリ階級までが論文にそれを引用し、外国の学者が、日本軍部を侵略の鬼と酷評すると、そのま、公理のように肯定して得々とする転向学者がいる。自分の奉職する職場の学匪を掃除できないものが、日本の思想を善導することができようか。

日本の大陸政策を非難する者は、ソ連の東進政策や南進論、米国の西進政策をどのように説くか、軍備なしの平和を誇った太陽のインカ帝国は、ピサロ、コルテス等の無法者の前に、はかなく消えた。無理が通れば道理が引込むの理で夢物語は青年の骨を抜いてしまう思想的阿片である。カントも喝破している

ように、知性の窮極は宗教に至るといふ。そうすれば、人間の最高者は宗教家ということになる。その宗教の完全に生活化しているのが、現代のユートピアであろうが、キリストの生誕地パレスチナは血の地獄になり、マホメットの故地もオイル戦争の中軸となり、釈尊の弘法地インドは飢餓地獄を呈し、孔子の教は、些か復権の兆があるが、中共の攻撃にさらされていた。反対に宗教否定の共產圏にあつては、ソ連の反体制運動は血の肅清の継続と強化によって維持されているが、全国の十五%の私有地の生産高が、共有否国有の土地八十五%の収穫と同額になり、中共では毛沢東の神話が次第に崩れ、毛沢東語録を掲げて、原爆に突進しても、被爆しないとの神託は信じられなくなり、兵士も十四階級に分類されることによって統制をとることに改訂されたと言ふ。つまり人間も、動物の摂理に支配されるのであつて、神の摂理によるならば、交戦による一千万人の軍民の被害も、内戦革命による一方的な処刑により、一千万人の人民が抹殺されたのも、ひとしく同じ犯罪である。真善美の極致を神とするならば、全知全能なるが故に、生存闘争の原因となる領土の再分割は神々の共通の使命なりとの説が必要になつてくる。アメリカのハウス大佐の言を待つまでもなく、地球の資源は人種によらず公平に配分しなければ、きつと現状打破の行動が起つてくる。動産、不動産の取得時効が十年、二十年と規定されている世の中に、二千年前から生活していたアラブのイスラエルの土地が、ユダヤの有力者によつて、強制的に奪わ

れて以来の中東の紛争なのであるから、世界の人口密度から、適正に配分して、アメリカ合衆国の一州でもユダヤ人の為に売却して独立国を建てていたら、流血の惨事も生れなかつたであろう。十六世紀の各国の国境を、現代と比較して、拡大されてあるものは、ほとんど略奪、略取、侵略の所産である。白人のアジア進出には、耳を閉じ、日本のアジア民族解放を帝国主義とののしるのは矛盾である。日本の朝鮮合併を罪悪とする人々は、あの土地が、露領になつたり支那の国土になつたとき、果して韓民族は幸福であつたかどうか考えてみたことがあるうか。しかし、日本人はマソ的性格を持ち、同時にサド的性癖も著しい。ジーキルとハイドの共存が日常の生活に表示されると本音と建前になる。だから、近頃のアンケートの結果は信用できない。事大思想的な義理返答が主流を為すからである。原爆の碑文でも、再び過を繰り返しませんと、加害者側に言わせたいのを、ぼんやりと各様に取られるような名文にしたのである。勝てば官軍である。

この傾向が人間の平等観に表示されると、人の絶対的価値と相対的価値が混同されてしまう。幼稚園児でも大学生でも、生物的存在としては等しい人権を持ち、碩学も精薄者も対等である。即ち、千万人と雖も我ゆかんと断言し、悪人を殺しても殺人ではないと叫んだ孟子も俗人の票数には負けてしまう。黄口乳嗅判官びいきの青年教師におもねる職員会議論や学校管理論が、自称反体制学者の著書として学校法の一分野を形成してき

たが、第三反抗期の血氣盛んな群小の喝采を博し、文部省系統の教委が実施する教員採用テストに減点疑なしの論点を展開するのであるから憂慮される。園児と大学院生の協議は成立しないが、精神年齢や教育観が、同じ幅の較差があり、あきれる程、幼稚な意見でも、人数が多いと真理として昇華される。しかも長時間を費やした程、民主的であると自賛するのであるから阿呆らしい。しかし古来日本人は短気であるから、大半の教師はプラトンの哲人政治のように傑出したヒューラーの命令を盲従的に実施したく思うであろう。中学校の知能統計によれば、小学校三年修了程度の境界線以下が十六%もあるのに、九三%の高校進学である。落ちこぼれ七割も当然である。それなのに、能力別とか、到達度別には反対が多い。建前は絶対的評価で本音は差別肯定の相対的評価になってしまふ。聖人の生命も、前科者の生命も区別をしないが、後者は動物の摂理によれば、断種か抹殺が理想とされるのである。罪を憎んで、人を憎まずの神の摂理のために、善意の第三者の人権が侵害されている。学校で事故があると、早速教員が召集され、深更まで同次元の論争が繰り返され、ある意見が頭角を示すと、反対でなければ賛成になり、方針が決定される。が、不思議なことに、管理者の意志を多数の力で抑圧して、職員会議が最高の意志決定機関とし、民主的な行為と豪語している連中が、処分の際して、どんな行動に走るか。不幸な管理者を犠牲の山羊として、殉死のゼスチュアーも示さない。対岸の火事は面白いものである。教

委としても、平常は天皇をシンボル化したのを真似て、上長をシンボル化しようとする野心を知っているのに、自己の保身のために、最も力の弱い人にしわよせをする傾向がある。その時だけ管理者は絶対君主の取り扱いを受ける。

世界をあげて弱肉強食の時代に、人道の理想面を看板として中途半端な経営はゆるされぬ。能力別よりも、むしろ意欲別の組み分けをし、効率主義の教師に指導させたら、時間は半減でもよい。その余った時間を、遅進生の指導にふりかえたら、師弟ともに能率的になる。等質と異質の編成とでどれが合理的であるか。アメリカでは八歳の少年に大学入学を許すというし、フランスで十六歳で大学院を終了と同じ資格を与えるという。ソ連では一連の秀才教育を計画し、中国も能力別指導に乗り出している。日本だけ、低い方の特殊教育に巨費を投じ、俊才をして、むなしく教室の一隅におしこんで悟った様な顔をしている。社会のリーダーを放置して、民力の平均値を低下させているが、流石に現実的な父兄は泣き寝入りはしないで、塾や予備校を利用してはいる。何々週間とか、何々憲章の題目的な、表面だけの外観で、ことを判断するので、夏の花火大会で二億円も費消したり、盆踊りの衣装に数千万の金を使ったり、一石三鳥でも不足の世の中に、無駄と無理が横行している。戦争犠牲者の従軍看護婦の恩給年金が可決された。一三〇〇人で一億八千万とか。

明治の内帑金制度の復元を上申する諫臣がいらないものだろう

か。古老、壮年は天皇誕生日に参賀して感涙にむせぶ程の感情を持つているが、昭和の次の代には、皇室に対する考が、どのように変化するか。戦後の教育を受けた若者が、大和民族を骨抜きにするには、国民の意識のなから、臣民的要素を払拭し、完全な人民とし、皇室は財閥の利益代表であり、軍国主義の手先であることを、頭の中に叩きこむのが近路である」との託宣を、どのように受けとめるかである。

少なくとも、身体的には、成熟加速現象によつて、少年の域を脱しているが、先進国なみに、十八歳で選挙権を持つようになった時、精神の成長が近隣諸国の思想攻勢に耐え得るか。どうかが問題である。

私は古来の英雄の中で一番尊敬しているのは、壇の浦の合戦で双方の腕で二人の源氏の武士を抱えて入水した能登守、平教経である。あくまでも敵に損害を与えようとの信念が心を打つ。彼を日本人の理想としたい。

第三、閨房の心理

三つ子の魂、百まで”の格言があるが、もつと根本にさかのぼると、人の一生は、受胎直後から、数週間の胎芽期を終るまでの母胎の健康の如何によるという。殊に、最初の細胞分裂

のはじまる二十四時間が大切であるというから、遺伝の要素と、母胎における環境の相互作用によつて、人が形成されるので、動物的な成長が胎内の十カ月の経過に決定的なものであることを示している。とかく教育家は環境を重視し、医者は遺伝を強調する傾向がある。双生児の研究とか、家系の探究から、優秀な形質として、バツハ家、ダーウイン家が、劣悪な形質として、ジューク家や、カリカック家が例示され、自然科学の発達から人工授精とか、冷凍精子、牛馬羊豚の品種改良の交配があり、植物界ではミチュエリン農法の実現もみられるようになった。鮭や鰻の人工孵化の場合、当時の水温とか水質の僅かな差違が大きな影響を与え、企業の興亡にも及ぶものであることが知られる。こうなると、児童生徒の出生の時と場所が、彼等の成長後の生活に何かの影響を与えるものでないかの疑問が生れる。疑問は仮説を産み、仮説は解明の情熱を起させる。私は未熟児の四月生れであることから、誕生月の神秘に早くから興味を持ち、つづけた。朱子が胎教を重視したのは、東洋人の通有性として納得していたが、アリストテレスが優生学的な胎教を説いているのには安心と奇異の念を持った。何しろ、ひとつのテーマを持つていると、すべての読書に、宝石を探するときの感触が生れてくる。

たまたまエール大学のハンチントン教授の産業地理の論文で、アメリカ東部の紡績女工の効率と、工場内の気温、温度、寒暖較差との総合的な相関が説かれているのを知り、やはり東部の

小学生の誕生日と知能指数の関係で五月、六月、七月生まれが、一月、二月、三月生まれより、平均一・五点高いとの記事を見た。また、心理学者、ピントナー博士が、アメリカの小學生一万七千の知能指数の調査で、六月、九月、十月生れが優秀で、一月、二月、三月、十二月が劣っていると報告で自信を得、オランダのトロムボ博士の早発性痴呆症の統計でも、四月、五月、六月が優秀であるのに、一月、二月、三月生まれに発生者が多いとの結論を得た。フランスの狂人のデータによれば、六月生まれが最大という。天才と狂人が紙ひとえとすれば、六月が最優となるのであろう。地球全体として、四季の分布とか気候区の関係とか、宇宙線、地磁気の影響とか、判明しないが、実際に優劣があつて、決して均一ではないのは何故か。同じ生活圏で、等しい教育を受けているのに、甲乙が生まれているのは不可解である。

そこで、日本の文献を探してみたら、昭和二十四年、文部省発行の教育心理に統計が出ていた。小学校六年二二三三人についての学業成績との関係図である。それは三百点満点で表示されているが、五月、六月、四月、七月、十月、八月、九月、十一月、十二月、三月、一月、二月の順になり、春生まれは優秀で冬生まれは劣等であつた。つまり早生まれの児童が劣っているのは、学制上、四月が入学期であるから、年長者が有利なのであろう。

幼稚園とか、初等教育では、誕生日別、学級編成があるが、

八尾市の成法小学校では実験がされていた。しかし、平等観の強化された現代では、到底、優劣を調査することは不可能であらう。だからこそ、一刻も早く実証的な結論を出したかつたのである。旧制の堺中学在勤中も、陸士、海兵、公立高校などの合格者数を誕生日によつて累計していたが、不充分であつた。ところが昭和二十五年に大阪市の中学校長になつてからは、自由に通テストを実施しては、胸をわくわくさせながら、統計のグラフを充実させていった。出題、採点とも、自分がやり、職員の手は一切借りなかつたからである。相当に疲れる仕事であつたが自校採用の教科書の内容は理解できるし、出身小学校の教育実態、年次差、居住地域差、父兄の学歴差、担任の熱意差、学力差が、鮮明にキャッチできるのが好奇心をそそつた。その後、大阪市の中央部と周辺部の地区担当の指導主事をすましてから、大規模校に赴任した。百人を越す教員の勤務評定をする代りに、メリットとして、独断で誕生日別学級を実施した。何しろ一学年で二二〇〇人であるから、二十四学級のどれかに、誕生日があつまつた。冬生まれは、二組にもわたるのに、六月生まれは、五月と合併にしないと、学級の人数が不足であつた。毎年の出産統計と一致して、量と質とは反比例をするようである。これでも六月、五月が二月、三月より優位であつた。一カ年の教育の後の総決算であるから、信頼されると思う。各組の担任は、当該生まれの教師を任じたので人間関係は血縁意識に近かつた。以上は、個人による時間的垂直的な観察の成

確認である。

果であるが、大阪市の教育研究会の経営部長の肩書を使って、大阪全市の中学校を対象に、全員の誕生日別の統計と各学級の評定5と評定1の生徒の誕生日を知らせてもらった。5は優秀生、1は劣等生を示すことになる。昭和三十二年で総員五〇〇一四人であった。人数の比率は一月が最高で一一・五%、最低は五月の六・八%、六月の六・九%となっている。これら各月生れの実人員と、前に学級から抽出した優秀生と劣等生の千分比を計算してグラフを作成してみると優と劣のカーブが完全に対称的になったので予想適中を喜んだものである。

近頃、われわれの手にする統計は、海外のものか、又は日本のどこかの特殊学校の一部の生徒を材料にしてあるので、今後の教育実践上の参考には無理である。

ちなみに同時期に大阪市立中学校の教員は五〇一二人であったが、一月、二月、三月生まれが多く、六月、五月、四月の順で少なく生徒と同じカーブであったし、校長、教頭の出現率は、五月、十月、十一月、六月が多く、一月、三月、八月の順で少なかった。

これらの研究が、一部の新聞に出たとき、二十年間にわたる校長の研究成果”として第一面に写真入りで掲載されたので、大阪市の商工会議所から講話を依頼されたり、易断家から激励されたり、世人から叱責されたり、色々であった。虎児を得んと欲して虎穴に入らないのは、ノイローゼになる。小の虫を殺して、大の虫を殺すことがあっても仕方がない。すべて幻の再

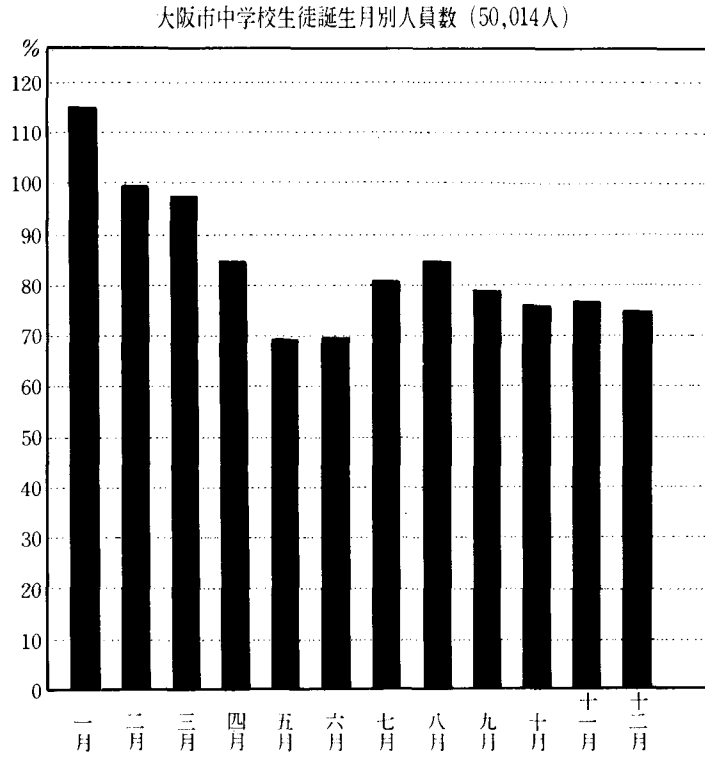
第4表 大阪市中学校生徒誕生日別人員数 (50,014人) 昭32. 6 ㉔

一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	誕 生 月
5,758	4,900	4,862	4,181	3,419	3,445	4,026	4,192	3,901	3,785	3,805	3,740	実人員
115.2	98.2	97.2	83.6	68.4	68.9	80.5	83.8	78.0	75.6	76.1	74.8	千分率

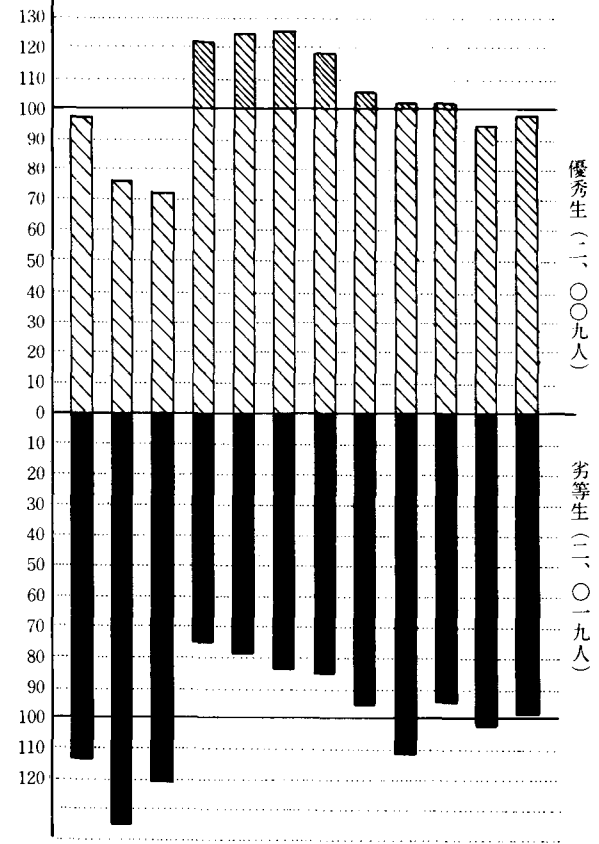
第5表 優秀生、劣等生の月別対比表

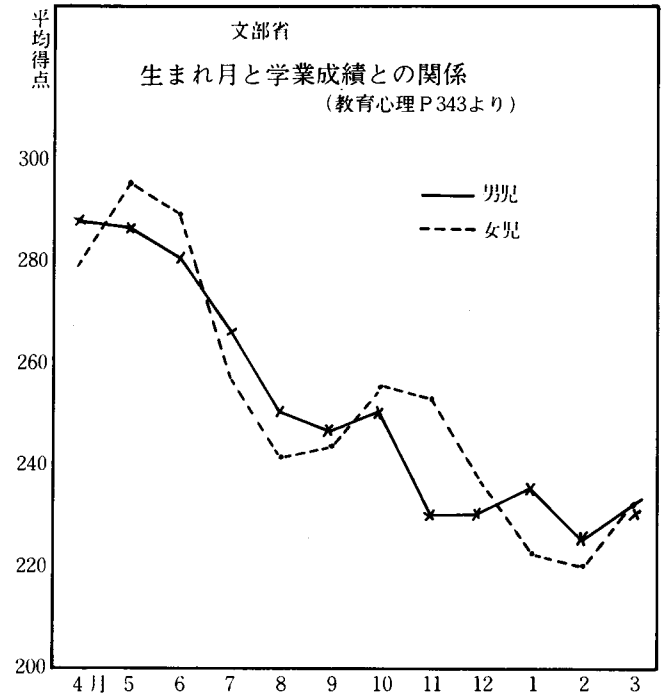
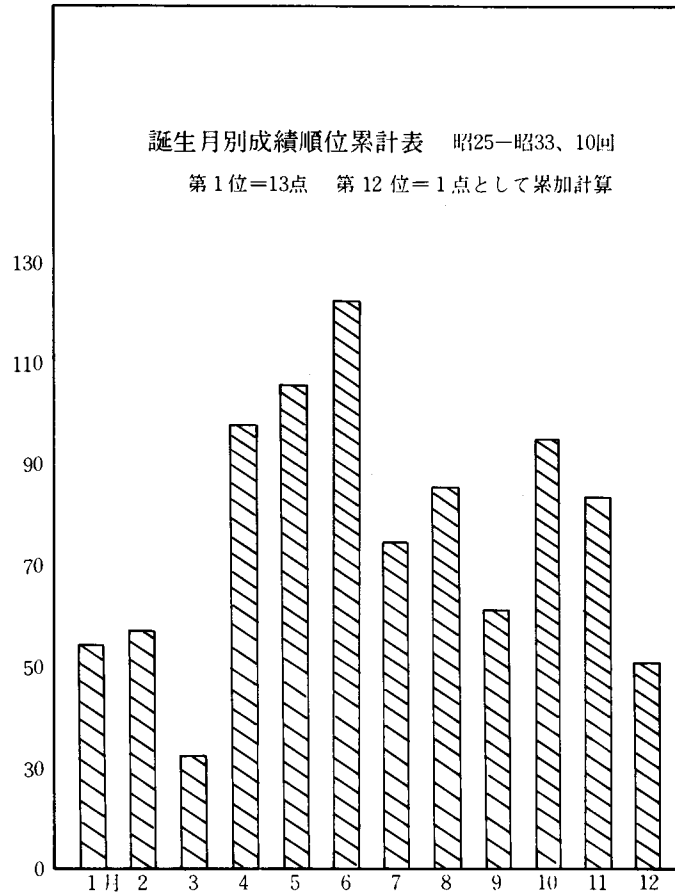
項目	誕生月												計
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
優秀生実数	223	146	138	203	169	171	189	177	159	154	144	146	2,019
全千分率	111.5	73.0	69.0	101.5	84.5	85.5	94.5	88.5	79.5	77.0	72.0	73.0	1,000
平均分布に比して% $\frac{B}{A}$	96.8	74.5	71.0	121.4	123.5	124.1	117.4	105.6	101.9	102.0	94.6	97.6	
劣等生実数	262	264	235	123	109	115	136	160	159	141	156	149	2,009
全千分率	131.0	132	117.5	61.5	54.5	57.5	68.0	80.0	79.5	70.5	78.0	74.5	1,000
平均分布に比して% $\frac{C}{A}$	113.7	134.7	120.8	74.7	79.7	83.4	84.4	95.4	110.9	93.2	102.5	99.5	

(備考) 5万14人の生徒中、一月生れの優秀生は 223 人である。生徒の生れ月に関係なく平等に優秀生がありとすれば、生れ月別表により当然1000人中115.2人なければならぬが、実際は 111.5 人であるから $\frac{111.5}{115.2} = 96.8$ 即ち96.8%となり、標準100%に比して低位である。



大阪市中学校生徒誕生月別優劣区分 千分率比較 (五万人中)





(本学教授-教育学)